私の探鳥地（４８）（野鳥だより 136 号 2004 年 6 月）

平岡公園（札幌市清田区）

川 東 保 憲・知 子

自宅から歩いて 5 分程の所に、梅林で知られる平岡公園があります。5 月はじめ、約 1，200 本の梅が次々に咲きます。緑の芝生に点々と置かれたピンクの濃淡、青い空と遠くに見える山々・・・。高台から見る梅林は春そのものです。梅見で賑わう梅林をよそに、わたしたちはほとんど裏山（梅林を表とすれば）を歩き回っています。オオカメノキが枝いっぱいに白い花をつけています。エンレイソウが咲き始め、ヒメイチゲも谷沿いでひっそり可憐な花を見せてくれます。梅林とはちがった静かな春がここにはあります。

鳥ではなく花の話になってしまいました。ここ平岡公園は、ずうっとわたしたちが野の花を楽しみながら歩く場所だったのです。鳥見を始めた頃は時間をやりくりして野幌、ウトナィ、千歳川など愛護会でおぼえた探鳥地に出かけていました。ここはあまり近すぎて「カラくらいしかいないのでは」と軽くみていたのと、鳥見は“探鳥地”でするもの、と思い込んでいたのかもしれません。

2 年ほど前のある日、遠出する時間がなくて、ポケットに双眼鏡を入れこの公園に出かけました。素敵なさえずりに誘われて山に入り、当てずっぽうに向けた双眼鏡にはいってきたのは、覚えたばかりのオオルリでした。林があるところならどこにでも鳥はくる、と納得。この時から平岡公園は「私の探鳥地」に昇格したのです。

平岡公園は、清田区平岡と里塚にまたがる 70ha もある総合公園です。道央自動車道をはさんで東地区に野球場、テニスコート、遊具広場などのスポーツ施設が、西地区は梅林と昔からの自然を活かした山林、湿地、草地、そしてかって石狩平野にあった湿原を再現した人工の湿地と池があります。「私の探鳥地」は、もちろん西地区です。

さて、ここ 2 年のメモをもとに平岡公園西地区の四季をめぐってみましょう。

3 月半ば、空にアオサギの姿をみつけたら鳥見シーズンの幕開けです。公園近くのジャスコにあるコロニーにアオサギが帰ってきたのです。春から秋、いつも上空にアオサギが飛んでいるのもここの特徴でしょう。

4 月、ちらほら水芭蕉が咲き始め、いつもいる鳥たちの声が囀りにかわる頃、旅の途中にちょっとだけ寄っていくお客様がいるので、目がはなせません。鳥見は 2 人で出かけることが多いのですが、この時期はヒマな者が“巡回”をすることになります。

去年は 4 月 3 日、草地に出たとたん目の前に、オレンジのからだに黒い顔、銀色に輝く頭の鳥がいてびっくり。一人だったのでドキドキしながら本と見比べ、ジョウビタキと確認しました。今年は 4 月 16 日に二人そろって見ることができ、ラッキーなシーズンインとなりました。

この前日 15 日には一人で、クマゲラ、オオアカゲラ、アカゲラを同時に見てしまい「クロ、アカ、ゲラゲラ」と仕事中の人にメールを入れてしまいました。「カワセミがいるぞー」と連絡が入ってかけつけたこともあり、春の鳥見にはケイタイも活躍しています。

ジョウビタキを筆頭に、ベニマシコ、ベニヒワ、ルリビタキなどがちらりと姿を見せ、カワセミやホオジロがいつもの場所に落ち着くと、次々に夏鳥がやってきます。アオジ、モズ、ヒバリ、キジバト、カワラヒワ、ニユウナイスズメ、メジロ、ウグイス、センダイムシクィ、アカハラ、ハクセキレイ、キセキレイ、そしてキビタキやオオルリ、クロツグミの歌が響きます。巣造りも始まります。

草地に大きなトドマツがあり、アカゲラの開けたらしい穴がいくつも並んでいて、わたしたちは「マンション」と呼んでいました。去年はここからアカゲラの子が 3 羽巣立ち、古い穴もコムクドリが使っていました。それが今冬のひどい風雪で、3 分の 1 を残して倒れてしまったのです。幸い利用者は今年もいて、倒壊をまぬがれたうちの最上階に今、ゴジュウカラの夫婦が出入りしています。5 月、ハウチワカエデに赤い花房が下がります。山道では足元に小さなフデリンドウの、紫と白のツーショット、ヒトリシズカも顔を出します。

6 月、山のあちこちでチゴユリが迎えてくれます。タニギキョウ、コケイラン、ギンリョウソウが人目を避けるように花をつけます。鳥たちは子育てに忙しくなります。カモの親子も歩いているカモ。

7 月、人工湿地がにぎやかになります。ヤブカンゾウ、キショウブ、クサレダマ、エゾミ

ソハギ、ギボウシ、サワギキョウなどが 8 月まで咲き競います。湿地の木道沿いにオニノヤガラがにょっきりと立ちます。去年はシロツメクサの咲く草地で、若いアオサギを見ました。近くにいるわたしたちを気にする風もなく、エサ取りに夢中でした。あの時期、あの動作からバッタ探りではないかと思うのですが・・・。

8 月、双眼鏡でよーく見てください。人工湿地でモウセンゴケが花をつけています。ミズアオイも青い花を開き、オニヤンマや青いイトトンボが飛びかいます。

9 月、ミゾソバが溝を埋めます。オオカメノキ、ガマズミ、チョウセンゴミシ、アクシバ、ユキザサ、ツルリンドウ・・・。花の終った山に実の赤が色を添えます。ツクバネソウが追羽根の形になり、サワフタギが瑠璃色になると、もう秋です。

10 月、カシラグカが枝の間から頭を見せ、山の枯葉の中には盛装？のベニテングダケが現れます。

11 月、蒲の穂がはじけ、ガガイモの種が舞います。ナニワズは蕾をつけて越冬の準備です。マヒワの群れが飛びます。

12 月、ツルアリドウシの赤い実に雪が積もります。

1 月、レンジヤクとツグミの群れが駐車場のナナカマドを食べつくします。

冬の間、駐車場は閉鎖されるのでほとんど人の姿はありません。3 月まではスキーをはいて静かな雪見です。運がよければミソサザイが歌を聞かせてくれますし、アカゲラ、コゲラ、エナガ、カケス、キバシリ、シメ、キクイタダキ、カラ類たちも顔を見せてくれます。もちろんここでもヒヨドリは一年中、一番の元気者です。

よそで何度も見ている鳥でも、ここで初めて確認できた時は「いたんだ！」とうれしくなってしまいます。これは「私の探鳥地」を持っている楽しみかもしれません。家から近いことがなによりの利点ですが、山、湿地、池、草地がそろっていること、木があまり高すぎないせいか鳥たちをごく近くで見ることができるのがここの魅力です。

年々、公園の利用者も増えているのでしょう。整備が進んであちこちロープがはられるようになり、草刈もていねいにされるようになりました。公園として手が入りすぎ、鳥たちの居心地が悪くならないか、少し心配なのですが‥。今までできてくれた鳥たちが、これからも忘れないで来てくれるようにと願っています。